

# 未来予測に立つ “少子高齢化”の取り上げ方

スタートとなる学習課題が将来人口推計の意味の問い直し。そのための学習問題を三点指摘したい。

三 未来予測への問い直し三種

一つは老年人口の境を六五歳より上位に移動させる問題。既に欧米各国で実施される長寿化に伴う定年と年金支給開始年齢引き上げが典型例。要介護者激増を代表に人口減少の課題は変わらないが、解決のための公的施策と公私の財源選択肢は拡大する。問題は受給者の同意だが、その獲得方法は二五年後の二〇四〇年に支える側の当事者になる現在の児童生徒には、最も切実な学習問題になるはず。

二つは女性の労働力拡大の問題。家庭の内と外双方での性別役割分業を廃し、意欲、個性、能力に基づき男女が共に働くことで支

える側の拡大を図る。課題は女性(母、嫁、妻、娘)が担ってきた家事、育児、介護の社会化と産業化を阻む法制度の改編。ここでも当事者となる資質(感受性や価値観)形成過程が学習問題を構成する。

三つは国の境(国民の定義)の変更による世代間と世代内の格差修正の問題。安価な労働力としての外国人労働者への依存を超えて、全ての職種・職階での多国籍化と移民の受容も視野においた法制度の整備が喫緊の課題となる。さらにより深く重い課題は、文化・言語・慣習の壁(新たな格差・差別)の顕在化への対処。社会学が率先して取り組むべき学習問題である。

※樋口美雄他編「人口減少と日本経済」日本経済新聞出版社 93頁

2010年と2040年のA(生産年齢人口:15-64歳)とB(老年人口:65歳以上)とC(A÷B:両者の比)

2010年	A	B	C
東京都	8,994	2,679	3.4
大阪府	5,708	1,985	2.9
神奈川県	6,028	1,830	3.3
愛知県	4,839	1,506	3.2
埼玉県	4,769	1,470	3.2

2040年	A	B	C
東京都	7,129	4,118	1.7
神奈川県	4,607	2,919	1.6
大阪府	4,048	2,685	1.5
愛知県	3,861	2,219	1.7
埼玉県	3,476	2,202	1.6

徳島県	476	212	2.2
佐賀県	517	209	2.5
鳥根県	417	209	2
福井県	491	203	2.4
鳥取県	355	155	2.3

福井県	327	238	1.4
徳島県	289	230	1.3
高知県	267	220	1.2
鳥根県	262	204	1.3
鳥取県	226	168	1.3

△静岡大学教育学部教授

# 社会参画型授業をつくる “これからの学習課題・学習問題”

馬居 政幸

一 将来人口推計が描く未来図

少子高齢化の最重要学習課題は世代間扶養の不均衡である。その問題を知るため、支える側A(生産年齢人口:一五〜六四歳)と支えられる側B(老年人口:六五歳以上)の実数(二〇一〇年)と推計値(二〇四〇年)を都道府県別に並べ、老年人口上位五位と下位五位のC=A÷Bを求めて表にした。

トップの東京都をみると、実数を示す一〇年の生産年齢は八九九万四千人、老年は二六七万九千人、両者の比は三・三六。三人強で一人の高齢者を支える値である。四〇年の推計値ではどうか。生産年齢は七一二万九千人に減少するが老年は四一一万八千人と大幅に増加。両者の比は一・七三と三人で

二人を支える値、人口推計が示す日本の巨大都市の未来図である。最下位鳥取県はどうか。一〇年の生産年齢は桁違いの三五万五千人。老年も一五万五千人と少数だが両者の比は二・二九。四〇年では生産年齢が二二万六千人、老年が一六万八千人、両者の比が一・三四。小規模人口減少県は二対一から一対一の扶養関係に縮小する。この数値は本当に日本の未来の現実を示すのか。答えは否である。

二 推計は現在の問題の拡大図

推計人口が描く未来図は「現在の人口、社会の問題点を将来というスクリーンに拡大」との金子隆一(国社人研人口動向研究部長)の言を重視したい。解くべきは未来ではなく現代の問題。何か。二〇一〇年下位県はいずれも高

齢化率が高い人口減少先進県。大都市に子弟を送り続け、その見返りに都市部の税が地方交付税として給付される県でもある。人口構成上は二人が一人を支える数値だが、実際は都市に出た子どもが故郷の老親を扶養することを想定した税と財政の仕組みで支えられる。大都市と小規模県の桁違いの人口差が可能にする制度でもある。

だが四〇年の推計値は、大都市が三人で二人を支える人口構成に変わることを示す。しかも人口規模は桁違いに大きく、税収を移行する余裕がなくなる。逆に、生産年齢人口の減少を補うために、若い男女を全国から移動させる圧力が高まること予測される。

故郷の町や村にとどまらず、都道府県の合併・消滅による日本国全体の再編成が課題になる。その



道越慈久先生 (長崎大学教育学部附属中学校)



池田直人先生 (長崎県長崎市立梅香崎中学校)



野茂大樹先生 (長崎大学教育学部附属小学校)



吉村一氣先生 (長崎県新上五島町立上郷小学校)

# 特集 社会参画授業—問題解決型の迫力ネタ55

なぜ今、社会参画力が強調されるのか 唐木清志・北 俊夫・平田博嗣 7

社会参画型授業をめぐる公民教育とは 寺本 潔 24

社会参画型授業をつくるコンセプト—どんなタイプがあるか 安野 功 14

社会参画型授業の基礎づくり—作業的学習のポイント 山本悦生 16

社会参画に必要な問題解決能力のトレーニング 浅野光俊 30

社会参画の解決に取り組むプランづくりトレーニング 佐藤章浩 34

社会参画型授業をつくる「これからの学習課題・学習問題」 藤塚明彦 40

地域課題の発見→解決へのプランづくり→モデル実践とは 南畑好伸 42

見えてく社会参画現象—社会参画の感覚プラスα 土井謙次 38

社会参画型授業で役立つ学び方3つのポイント 篠塚明彦 40

この単元・社会参画型で構想するポイント 南畑好伸 42

トワールミン・モデル—思考指導の見直しポイント 藤井千春 62

池野範男 98 田口紘子 100 佐長健司 102 井上伸一 104

河田祥司 乾 正学 栗田千恵子 106

今月の教材—楽しい授業づくりのポイント 片上宗二 114

超有名・有田ネター—あの話の続き—を授業構想 北 俊夫 120

社会科実践研究のここにハイライト(中学校) 岩本廣美 130

グラビア・気になる「このテーマ」社会科教師の写真館=原田朋哉/私の社会科見学—マルチ情報=藤本博文/「このデータ」を解体新書=柳澤一輝/目次写真=福田正弘(132ページに紹介があります)/表1・世界のパワーマップ—テーマ別